

タイトル：英語学科主催講演会 みんなで考えよう、就活の謎マナー

日時：2021年12月10日（金曜）13:35-15:15

開催方法：W204教室/Zoomのハイブリッド開催

ゲスト：水野優望さん他、署名チーム3名

参加者：本学学生、教職員、約30名

内容：

みなさんご存知のように、大学を卒業してすぐ企業などに就職して働きたいなら、大学3年生頃から就職活動（就活）を始めるのが現在の日本の通例です。そして就活には男女別にかなり細かなマナーがあって、髪型、服装、立居振る舞いに至るまで、望ましいとされる型に合わせることも通例です。しかし一方で、性別が「男・女」の二枠（性別二元論）に収まるものではないことも知られるようになってきました。この講演会では、性の多様性や一人ひとりの人権という観点から、現状の就活にはどんな問題があり、どう変えていくことができるかを、参加者一同で考えました。

ゲストにお招きしたのは、「#就活セクシズムをやめて就職活動のスタイルに多様性を保証してください!」と訴え、署名活動をしているチームの水野優望さん他2名の方々です。署名はchange.orgで現在も行われており、2020年11月の開始以来、1万7千人が賛同しています。

講演の冒頭では、開催側からの趣旨説明のあと、水野さんたちに自己紹介と署名活動の紹介をしていただきました。ご自分の就活時に一律的なマナーに強い違和感を覚えたこと、そして#KuToo運動に関わる中で自分も声をあげていいと実感できたことが、署名活動の立ち上げにつながったそうです。

続いて開催側から、前もって獨協生や獨協教職員から集めた体験談や質問の報告があり、それを受けて水野さんたちにコメントをいただきました。体験談からは、就活だけでなく、アルバイトや就職後の配属などの場面や日常的な場面においても、性別二元論など、ジェンダーやセクシュアリティをめぐる不文律のさまざまな前提があることがうかがえました。また、就活生に周囲はどんな言葉をかけるのがいいのでしょうかという質問に、そのまま性別二元論をなぞるのではなく、本当はおかしいよねと付け足してほしい、そして最終決定権はその人にあることを強調してほしいという答えも示唆に富むものでした。

講演会の最後には小グループにわかれ、それぞれの感想をシェアしました。

全体を通して、考えるヒントになる発言がたくさん出てくるので、関心のある方はぜひご視聴ください。（水野さんご本人のお話は7分後くらいから始まります。なお、小グループの話し合いは動画ではカットしています。）

学生の声：

・改めて性に関する議論は難しく、何が正解なのだろうと考えさせられる良い機会でした。

ジェンダーに関する問題が頻繁に議論されたりするのは、やはり男か女かという二元論的な考え方が古くから人々に根付いているからだと改めて感じました。自分もまだまだ理解が足りないし、二元論的思考は深く自分の中に根付いていると分かる貴重な機会でした。性についての議論が高まっている世の中、そしてこの時代に生きているので、「自分の価値観」や「世の中の当たり前」を疑い、様々な視点で物事を見ることのできる人間に成長していきたいです。

参考文献

田中里尚『リクルートスーツの社会史』（青土社、2019年）

星賢人『自分らしく働く LGBT の就活・転職の不安が解消する本』（翔泳社、2020年）